

2018年3月期第2四半期 決算説明会資料

～中期経営計画「NC2020」初年度の進捗について～

稲畑産業株式会社

代表取締役社長 稲畑 勝太郎

2017年 12月5日

1. 会社概要	… P 3
2. ドイツ子会社関連のご説明	… P 5
3. 「NC2020」初年度の進捗について	… P 9
4. 参考資料	… P 25

稲畑産業とは、



稲畑染料店（京都・西陣）

1. 創業1890年

1890年 京都において、稲畑染料店として発足
その後、ケミカル分野を中心に事業を拡大

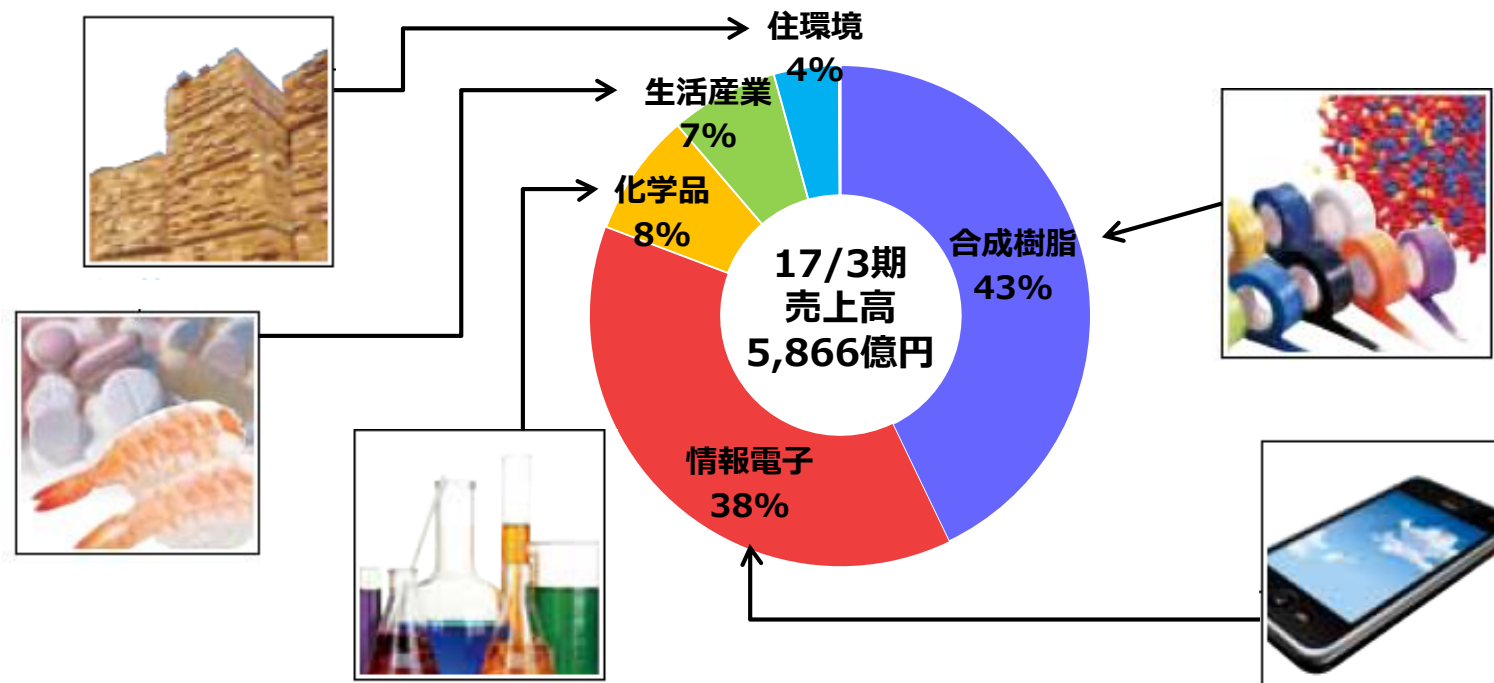
2. グローバルに複合展開する商社

世界18カ国に約60拠点を展開
市場開発、製造加工、物流、ファイナンス等の機能
商品やマーケットの専門知識・ノウハウに基づく企画・提案



3. 5つの事業分野

情報電子、化学品、生活産業、合成樹脂、住環境の5つの分野で事業を展開



■ ドイツ子会社 (※) 関連のご説明

- ドイツ子会社(IKEG)において、太陽電池モジュールの在庫の販売予定先（X社）による無断売却が発覚



- 事実関係の確認と決算数値確定のため、2018年3月期第1四半期の決算報告を延期（決算発表日：2017年8月14日から9月13日へ）



- 第三者を含む社内調査委員会を設置。同委員会において、事実関係の徹底解明と原因分析を行い、再発防止策の提言を含む調査報告書を当社に提出



- 調査報告書を受けて、再発防止推進部会を設けて再発防止策を策定
- 取締役会にて再発防止策を決議（東証適時開示：2017年9月28日）



グループ内で再発防止策を周知・徹底

◆ 今回の問題を招いた背景

- 欧州リージョンが他リージョンと比較して業績が伸び悩む中、ビジネスの拡大を急いだこと
- ドイツ子会社は、欧州の商社拠点として設立（2013年12月）してからまだ数年で社員教育や組織体制が十分でなかったこと
- 当社の海外ビジネスが急拡大する中で、全社的な海外グループ会社の管理体制の整備が一部追いついていなかったこと

再発防止策	
1.仕入・在庫管理に関する対策	1-1 実地棚卸、帳簿棚卸の強化
	1-2 大量仕入に関する決済基準の設定
2.業務管理に関する対策	2-1 海外子会社の業務ルールの周知・徹底
	2-2 仕入・在庫管理、与信管理、業務管理に関する教育研修の徹底
3.営業部門と管理部門の意思疎通を円滑化する対策	
4.グループ会社管理機能を強化するための対策	4-1 新たな情報システムの構築
	4-2 当社管理部門の牽制機能の強化

◆ 当第2四半期累計期間の連結決算に与えた影響

- 太陽電池モジュール在庫の差異不明分による売上原価増 12百万円
- 太陽電池関連の取引先（X社）に対する債権及び関連する債権に対する貸倒引当金を計上 約31億円
- 関連する投資有価証券の評価損を特別損失で計上 2.5億円



通期見通しを下方修正

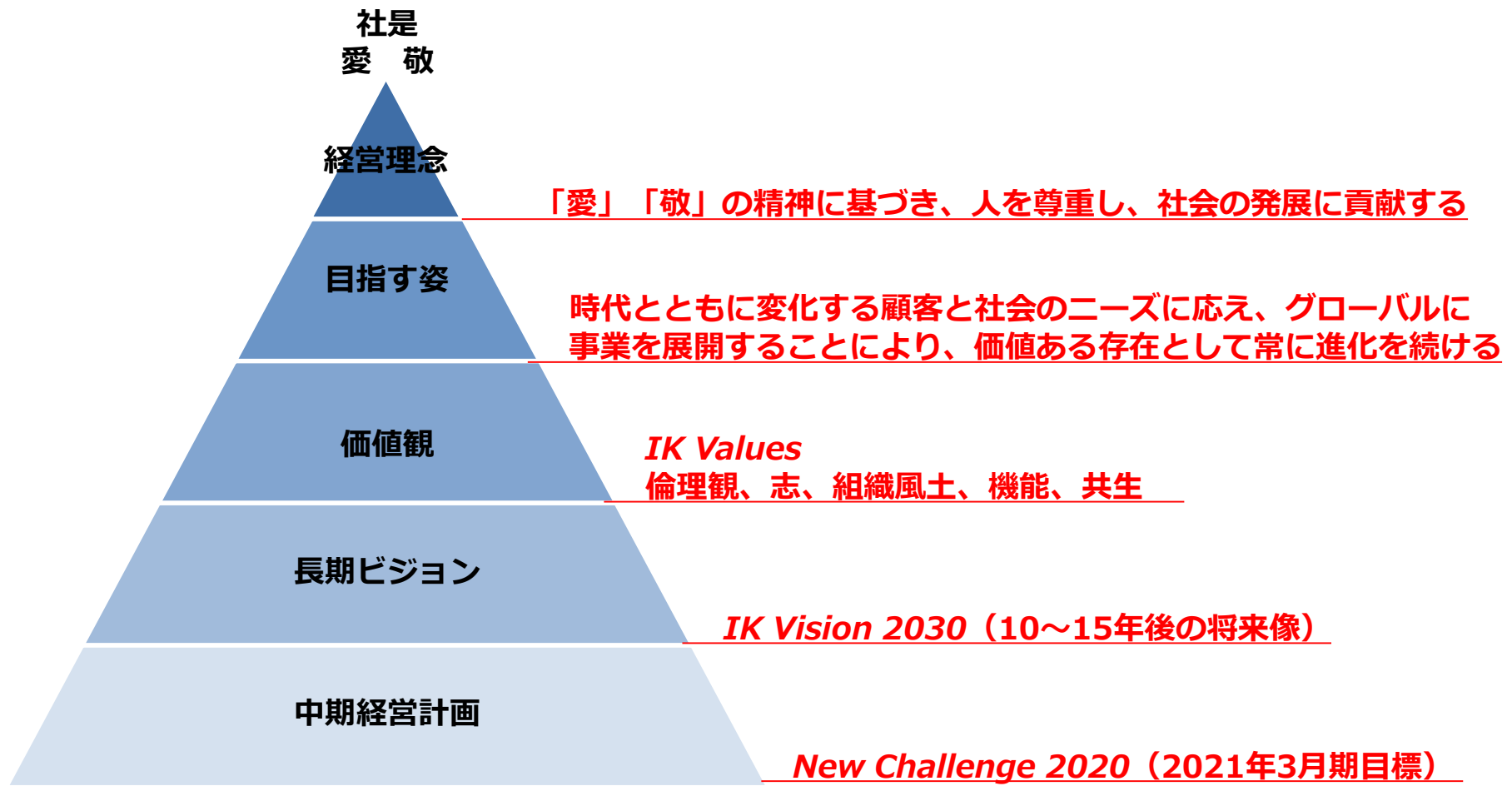
(億円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期利益
期初予想	6,300	125	130	100
第1四半期予想	6,200	115	120	100
第2四半期予想	6,200	90	95	100 (※)

(※) 第3四半期に投資有価証券売却益（特別利益）約41億円の計上を予定（適時開示 2017年11月14日、30日）
第2四半期までの計上金額2,791百万円をあわせると、累計で約69億円の見込み

■ 中期経営計画

「NC2020」 初年度の進捗について

◆中期経営計画策定にあたり、当社が目指す長期ビジョンを策定



◆今後10～15年後（2025～2030年頃）を念頭に、将来像を想定

機能 : 商社機能を基本としつつも、製造・物流・ファイン等の複合的な機能の一層の高度化を図る

規模感 : 連結売上高 1兆円以上を早期に実現

海外比率 : 70%以上

ポートフォリオ : 情報電子・合成樹脂以外の事業の比率を1/3以上に

2021年3月期を最終年度とする4年間の中期経営計画

定量目標	2021年3月期
売上高	7,300億円
営業利益	155億円
経常利益	160億円
親会社に帰属する 純利益	120億円
ネットD/Eレシオ	0.4以下
想定為替レート	USD1=110円

【重点施策】

1 海外事業の更なる拡大と深化

2 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

- ・自動車、ライフインス・医療、環境・ITルギ-分野へ引き続き注力
- ・食品を含む農業分野への新たな展開

3 グローバルな経営情報インフラの高度化

- ・グループ全体最適の徹底
- ・海外事業のマネジメントの高度化と標準化

4 商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

- ・商社ビジネス拡大を主たる目的としたマイリティ投資の実施
- ・リスク・金額を限定したマジョリティ投資の検討

5 保有資産の継続的な見直しと財務体質の強化

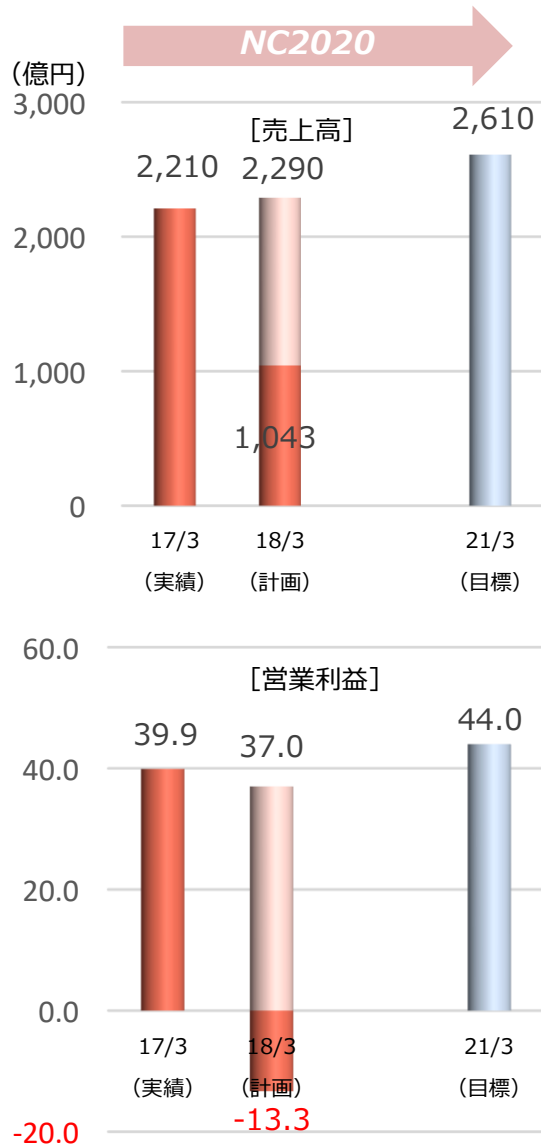
6 グローバル人材マネジメントの確立

事業	事業環境
情報電子	<ul style="list-style-type: none"> 液晶関連は中期的に微増、パネル生産は中国へのシフトが続く 複写機・プリンターは成熟産業だが、産業用に成長の余地あり 太陽光発電は、日本では期待薄だが、海外で成長が続く
化学品	<ul style="list-style-type: none"> 国内の既存マーケットは変化が少なく、当社が扱える商材の市場も限定的 外資系化学メーカーが、日本市場において営業を商社に任せる動きあり
生活産業	<ul style="list-style-type: none"> 医薬は、新薬市場と再生医療が緩やかに成長 ホームプロダクツは、国内市場が飽和状況、新興国市場は拡大 食品は、先進国では健康、安全志向へ、新興国では食の消費増進む
合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 顧客・サプライヤー共にグローバル化の動きが加速 グローバル対応が可能な商社への集約化選別が進む
住環境	<ul style="list-style-type: none"> 新設住宅着工件数は減少が続く見通し リフォーム市場は拡大 大手ハウスメーカー、住宅設備機器メーカーの海外進出加速

事業	事業環境
情報電子	<ul style="list-style-type: none"> 液晶ビジネスは、中期計画の期間中、引き続き主力事業として収益の維持を図る 長期的に、現主力事業の成長鈍化も想定して、新規ビジネスの拡大に注力
化学品	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品業界の更なる深堀り 自動車業界をメインとしたコーティングビジネスの拡大 外資系化学メーカーとの取り組みを強化
生活産業	<ul style="list-style-type: none"> 新薬・原料ビジネスは、有望テーマを拡充。先端医療分野に最注力 ホームプロダクツ・食品は、海外を含めた市場拡大による売上拡大を図る 食品では、生産者ポジションと加工業への進出を進める
合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> コンパウンド事業を武器に樹脂の販売を拡大 自動車分野と特に北米市場に注力
住環境	<ul style="list-style-type: none"> 海外市場への拡販 非住宅分野へ注力

【定量目標】

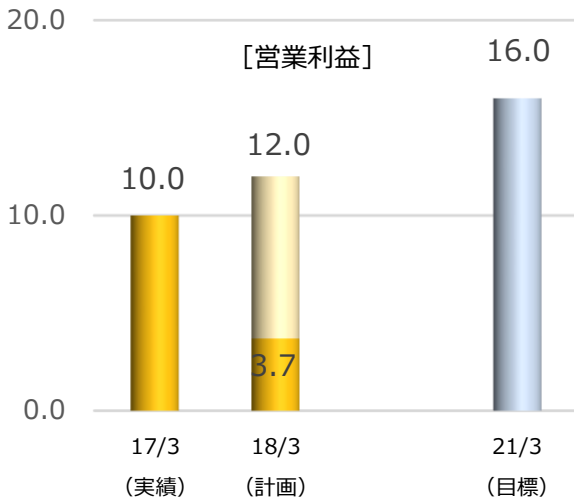
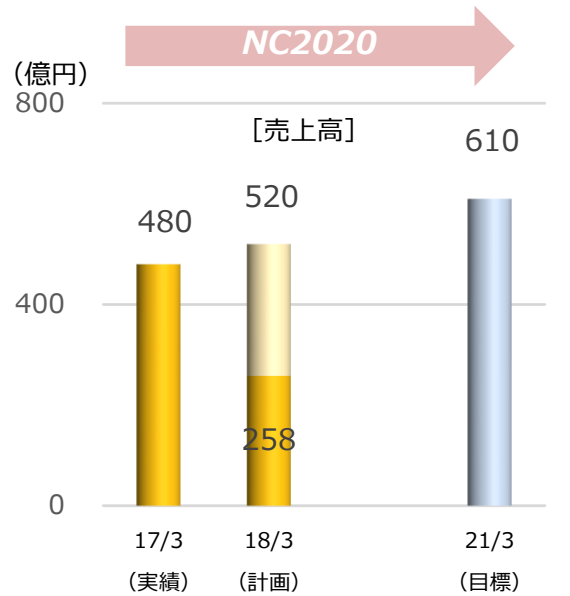
	2018年3月期 2Q実績 (A)	NC2020 2018年3月期 計画 (B)	達成率 (A)/(B)%	2018年3月期 見通し
売上高	3,049億円	6,300億円	48.4%	6,200億円
営業利益	29億円	125億円	23.5%	90億円
経常利益	33億円	130億円	25.9%	95億円
当期純利益	27億円	100億円	27.3%	100億円
自己資本比率	39.8%	—		—
為替レート	USD1=111.04円	USD1=110.00円		USD1=110.00円



	18/3期2Q 実績 (A)	NC2020 18/3期 計画 (B)	進捗率 (A)/(B)%	18/3期 見通し
売上高	1,043	2,290	45.6%	2,190
営業利益	▲13.3	37.0	—	4.0

- ✓ 太陽電池関連の引当金計上により営業損失。太陽光発電ビジネスは計画を一部見直し
- ✓ 液晶関連は、中国・台湾で大型偏光板の価格競争激しくシェアダウンするも、国内の偏光板原料の好調により利益面では善戦
- ✓ リチウムイオン電池は電池試作/評価と、中国・韓国電池メーカー向け材料販売に注力

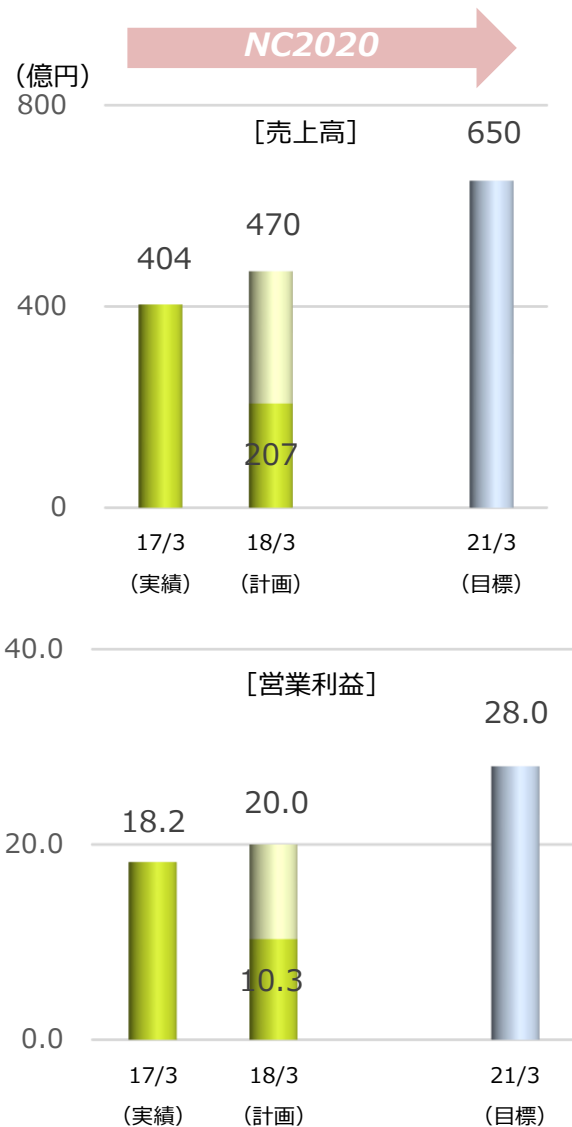
収益ドライバー	成長ドライバー
<ul style="list-style-type: none"> 液晶関連部材 複写機・プリンター関連部材 	<ul style="list-style-type: none"> リチウムイオン電池関連 (太陽光発電関連) 「創エネ」に加え、「蓄・放・省エネ」ビジネスの展開



	18/3期2Q 実績 (A)	NC2020 18/3期 計画 (B)	進捗率 (A)/(B)%	18/3期 見通し
売上高	258	520	49.7%	520
営業利益	3.7	12.0	31.4%	11.0

- ✓ 売上は順調に推移したが、貸倒引当金の計上もあり、営業利益の進捗は遅れる
- ✓ 塗料・インキ分野向け原料・中間体の販売は、海外向けが伸長
- ✓ 放熱材の原料販売は順調に拡大、放熱材の製品販売は自動車向けに緩やかに進捗、引き続き注力

収益ドライバー	成長ドライバー
<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品原材料関連 コーティング（塗料・インキ）関連 	<ul style="list-style-type: none"> 放熱部材関連（ポリマテック社） グラスウール入り樹脂等 新規商材

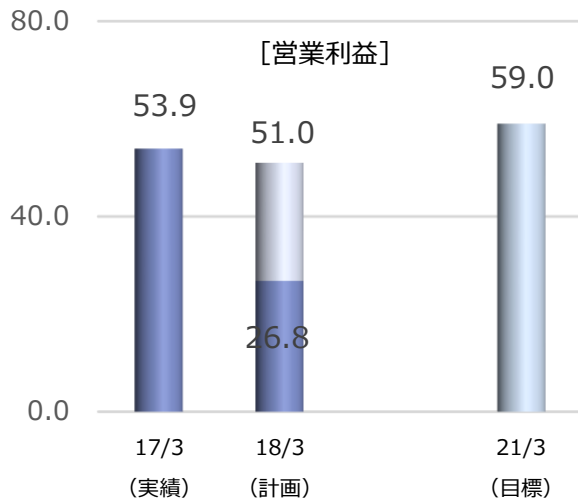
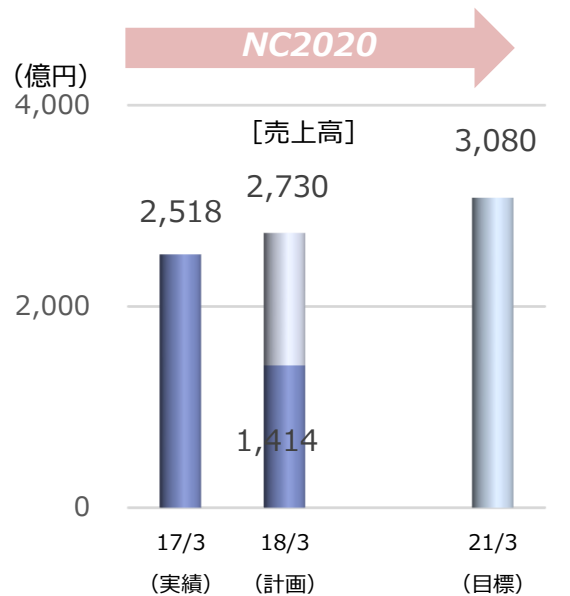


	18/3期2Q 実績 (A)	NC2020 18/3期 計画 (B)	進捗率 (A)/(B)%	18/3期 見通し
売上高	207	470	44.1%	470
営業利益	10.3	20.0	51.6%	20.0

- ✓ 医薬品・ホームプロダクツ関連の堅調により営業利益は、計画を上回る
- ✓ 医薬・化粧品子会社（仏）はリストラにより収益改善
- ✓ 北海道農産物（※）の栽培、販売をスタート、収益への貢献は来期以降

（※）ブルーベリー、カボチャ、ニンニクなど

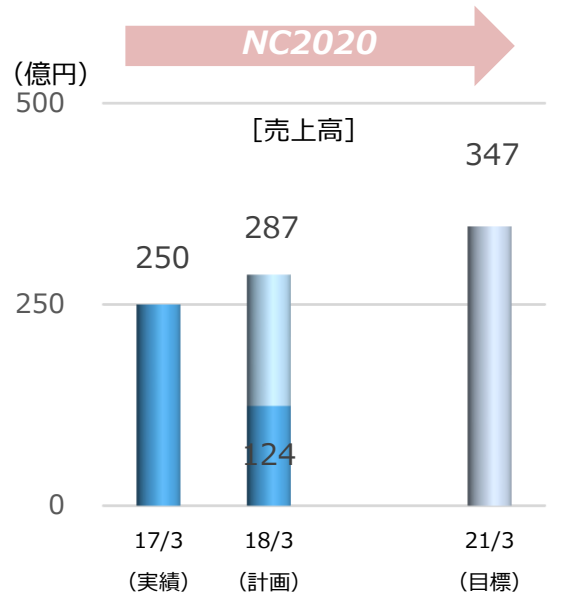
収益ドライバー	成長ドライバー
<ul style="list-style-type: none"> • 医薬原料（新薬） • ホームプロダクツ原料 	<ul style="list-style-type: none"> • 再生医療などの先端医療 • ブルーベリーを中心とした農産品 • 新たなビジネスモデルの構築（農業、食品加工業）



	18/3期2Q 実績 (A)	NC2020 18/3期 計画 (B)	進捗率 (A)/(B)%	18/3期 見通し
売上高	1,414	2,730	51.8%	2,730
営業利益	26.8	51.0	52.6%	52.0

- ✓ 注力分野である自動車関連を中心に樹脂の販売が、国内外共に好調、売上・営業利益共に計画を上回る
- ✓ フィルム・シート関連は、天候不順等の影響もあり売上、利益共に計画した伸びを得られず
- ✓ 自動車関連は、グローバルユーザーへの販売が順調に拡大、タイ、インドネシアの日系自動車メーカー向けも回復傾向

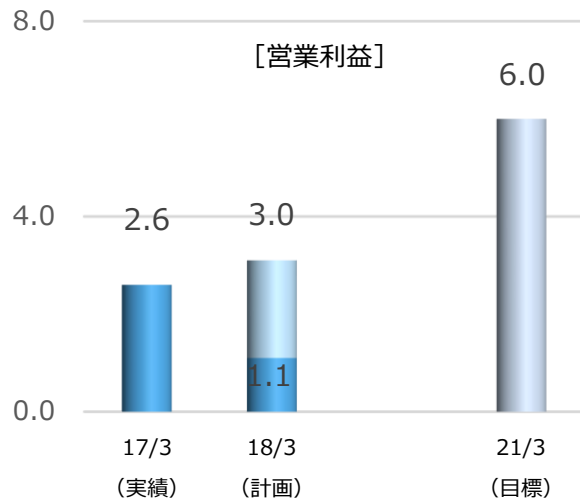
収益ドライバー	成長ドライバー
<ul style="list-style-type: none"> 自動車、O A、家電分野向け樹脂 製造・加工を含むフィルム関連 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルユーザーへの販売 海外事業の更なる拡大（地域・分野）



	18/3期2Q 実績 (A)	NC2020 18/3期 計画 (B)	進捗率 (A)/(B)%	18/3期 見通し
売上高	124	287	43.5%	287
営業利益	1.1	3.0	39.3%	2.0

✓ 海外関連や住宅関連が伸びず、売上・営業利益共、計画を下回る

✓ 廃材利用のパーティクルボードの販売は堅調



収益ドライバー	成長ドライバー
<ul style="list-style-type: none"> 大手ハウスメーカー、住宅設備機器メーカー向け資材 	<ul style="list-style-type: none"> 海外市場（フローリング等） 非住宅分野（ウレタン原料、チップ等）

商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

(億円)	18/3期 2Q実績
成長投資	25.9億円
定常投資	6.6億円
合計	32.5億円

■ 18/3期2Q 主な成長投資

- [化学] 出資 16.7億円 (自動車・放熱関連)
- [情電] 出資 4.8億円 (環境・エネルギー関連2件)
- [合成] 設備投資 1.0億円 (コンパウンド関連計)

利益還元の方針

総還元性向 30～35%目安

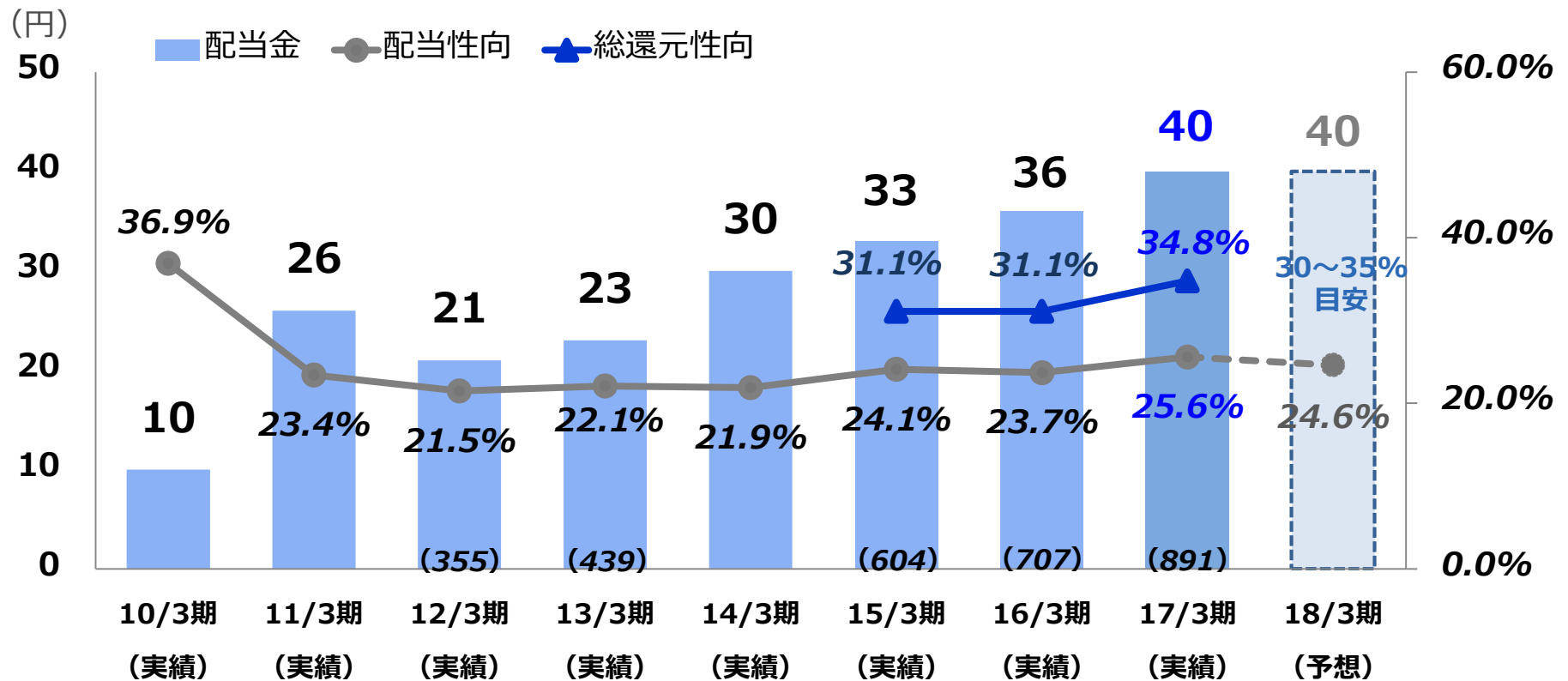
2018年3月期

1株当たり配当金：
中間配当 20円
期末配当 20円（予想）

【参考】自己株式取得

取得対象株式	:	普通株式
取得株数	:	400,000株（上限）
株式取得額	:	850百万円（上限）
取得期間	:	2017年11月15日～12月21日

1株当たりの年間配当金と株主還元指標の推移



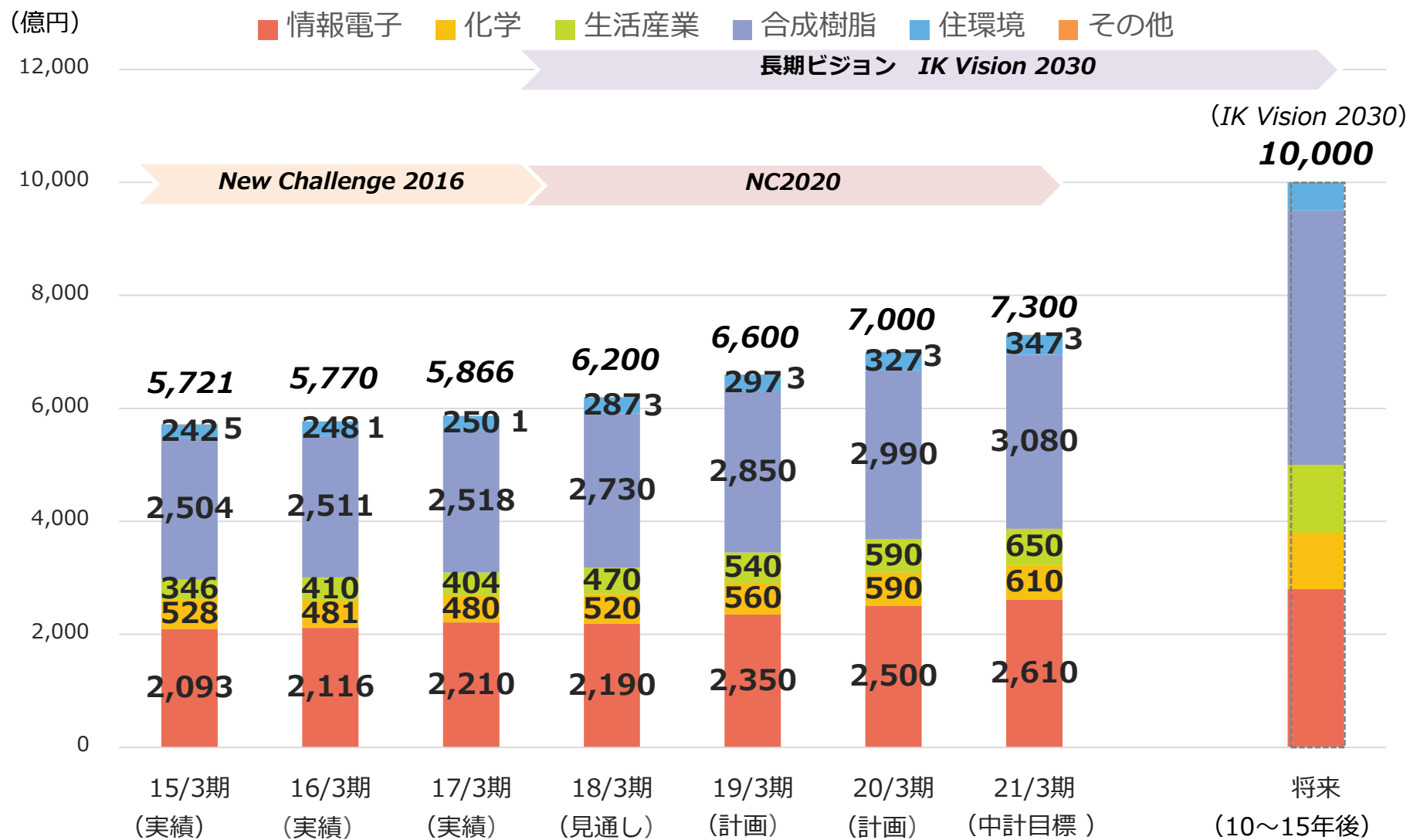
※ 棒グラフ下部のカッコ () 内は、期中に実施した自己株式取得額 (百万円)

※ 11/3期は、創業120周年の記念配当2円を含みます。

■ 参考資料

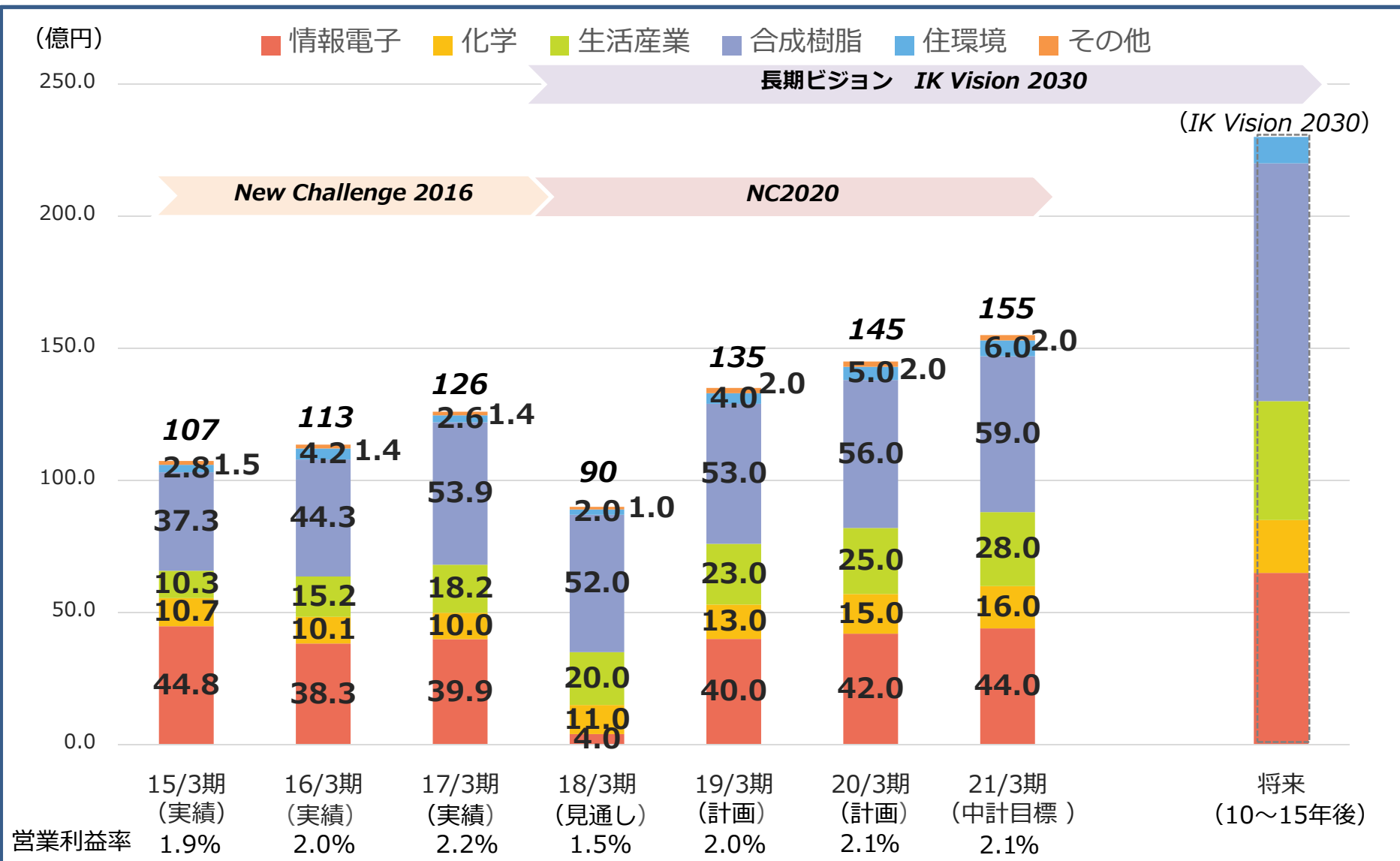
1. NC2020 セグメント別売上高・営業利益推移	… P 27
2. 売上高・営業利益推移（過去15年）	… P 29
3. 海外の売上高・営業利益推移（過去15年）	… P 30
4. 事業環境 情報電子事業・合成樹脂事業	… P 31
5. 成長が見込める市場・未開拓分野への注力	… P 33
6. 海外事業の更なる拡大と進化（コンパウンド製造拠点）	… P 37
7. ガバナンスの強化	… P 39
8. グローバル人財マネジメントの確立	… P 40
9. 1株当たりの当期純利益	… P 41
10. 樹脂コンパウンドの年間生産能力	… P 42
11. 会社概要	… P 43

【参考】NC2020 セグメント別 売上高推移



(※) 18/3期通期見通し 6,300億円 → 6,200億円 (2017年9月13日公表見通し)

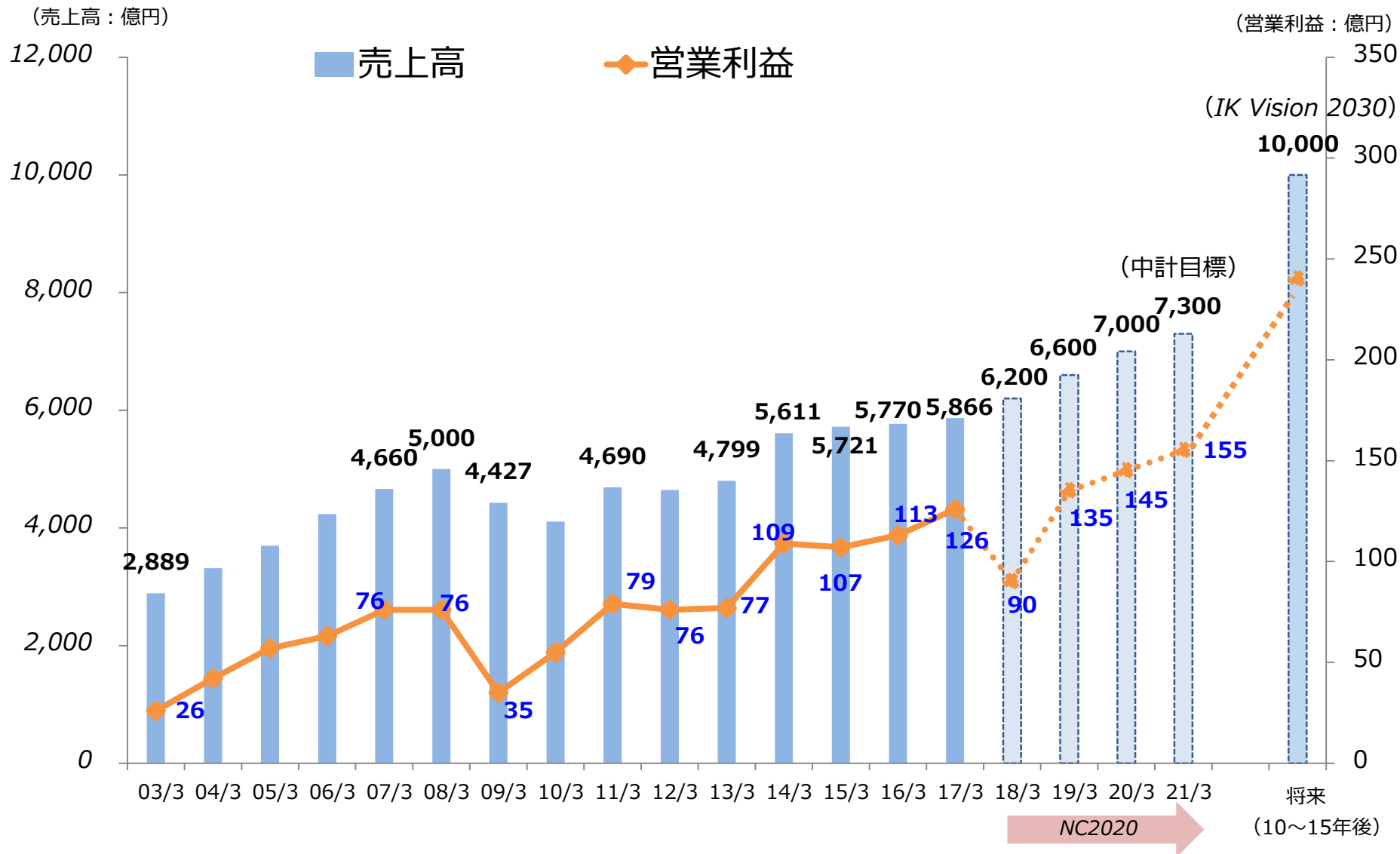
【参考】NC2020 セグメント別 営業利益推移



(※) 18/3期通期見通し 11,500百万円 → 9,000百万円 (2017年11月14日公表見通し)

2018年7月2日 17/3期営業利益率修正 (修正前)1.9% → (修正後)2.2%

【参考】売上高・営業利益推移（過去15年）

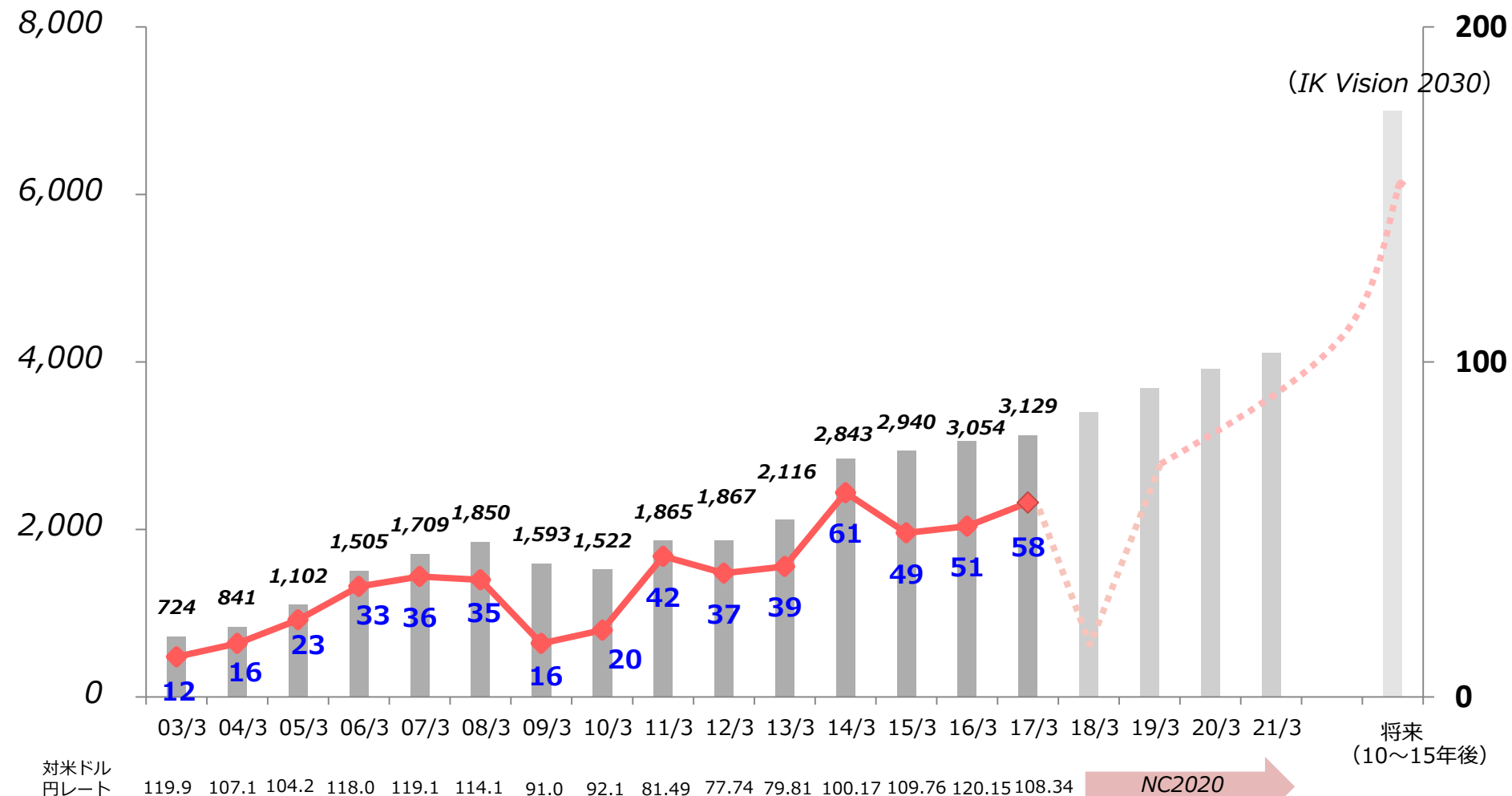


【参考】海外の売上高・営業利益推移（過去15年）

(売上高：億円)

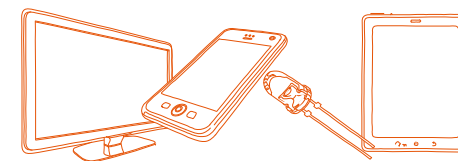
■売上高 ◆営業利益

(営業利益：億円)



■ 液晶パネルのマーケット

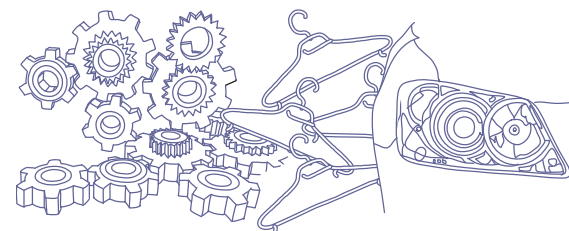
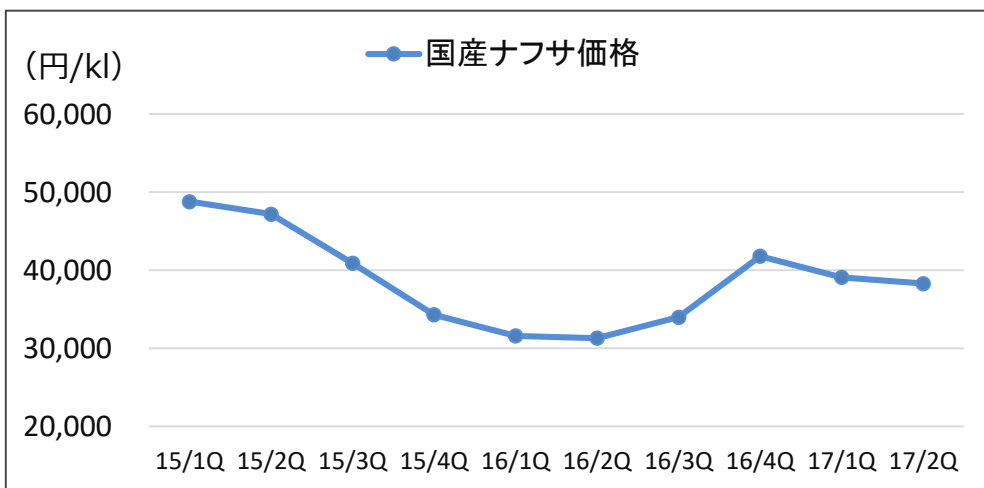
- 液晶パネル（大型）価格は7月以降、TV販売の低迷により下落基調
- 2018年に向けて、中国パネルメーカーの生産能力増強が続く
液晶パネル市場は台湾・韓国メーカーから中国メーカーへ
- 高品位スマートフォンを中心に、液晶から有機ELへのシフトが加速
但し、面積ベースでの市場シェアは限定的



	2016年度 実績	2017年度 2Q実績	2017年度 見通し
TVセット	229百万台 (99%)	99百万台 (95%)	220百万台 (96%)
LCDパネル（大型）	261百万台 (97%)	132百万台 (99%)	258百万台 (99%)
スマートフォン	14.2億台 (105%)	7.0億台 (103%)	14.8億台 (104%)
タブレット	1.5億台 (81%)	0.63億台 (89%)	1.32億台 (88%)

■ 合成樹脂のマーケット（国内）

- 国産ナフサ価格は、対前年同期比 約7,000円の上昇
- 汎用樹脂を代表する塩ビは緩やかに上昇し、対前年同期比約15%アップ
- 2017年の国内自動車生産は930万台程度とほぼ前年並みの見込み
中国・米国市場は好調、東南アジアは回復傾向

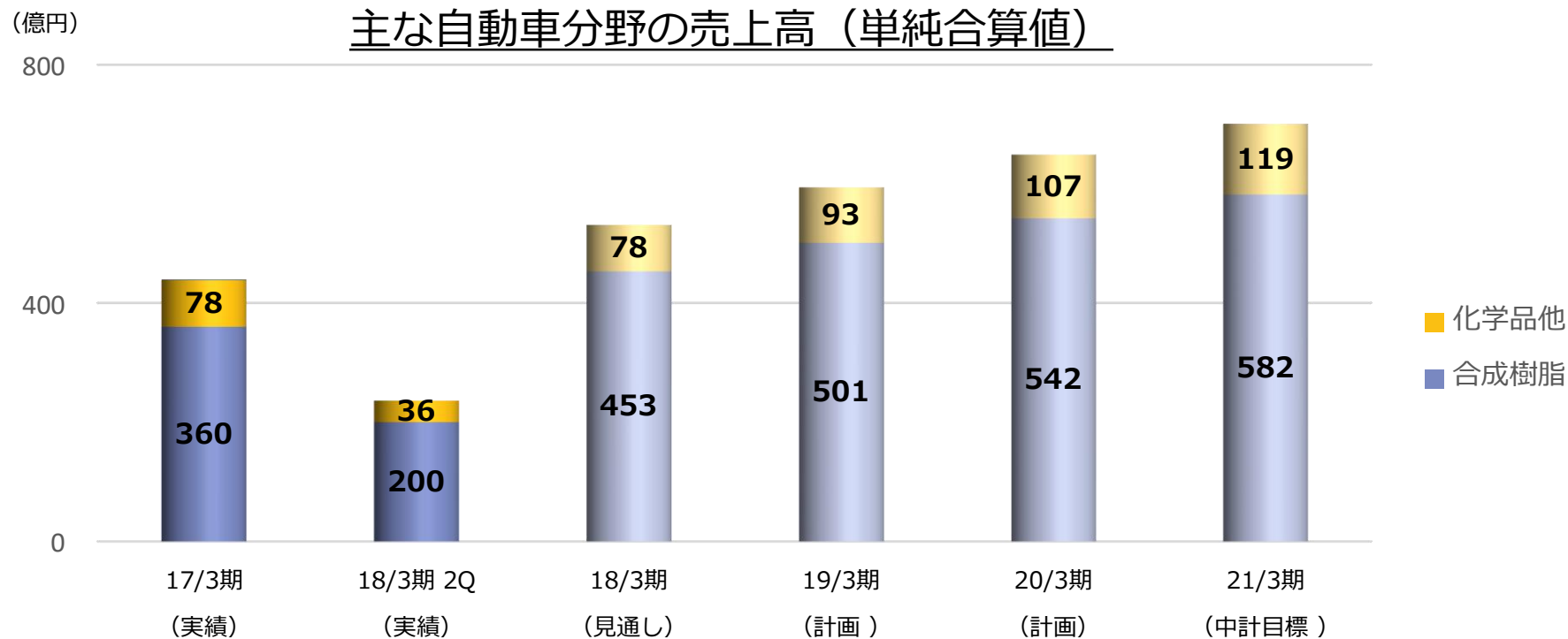


自動車分野への主な取り組み

[合成] グローバルユーザーへの樹脂の拡販、北米市場に注力

[化学] 部品・塗料原料の拡販、放熱材原料・製品の販売に注力

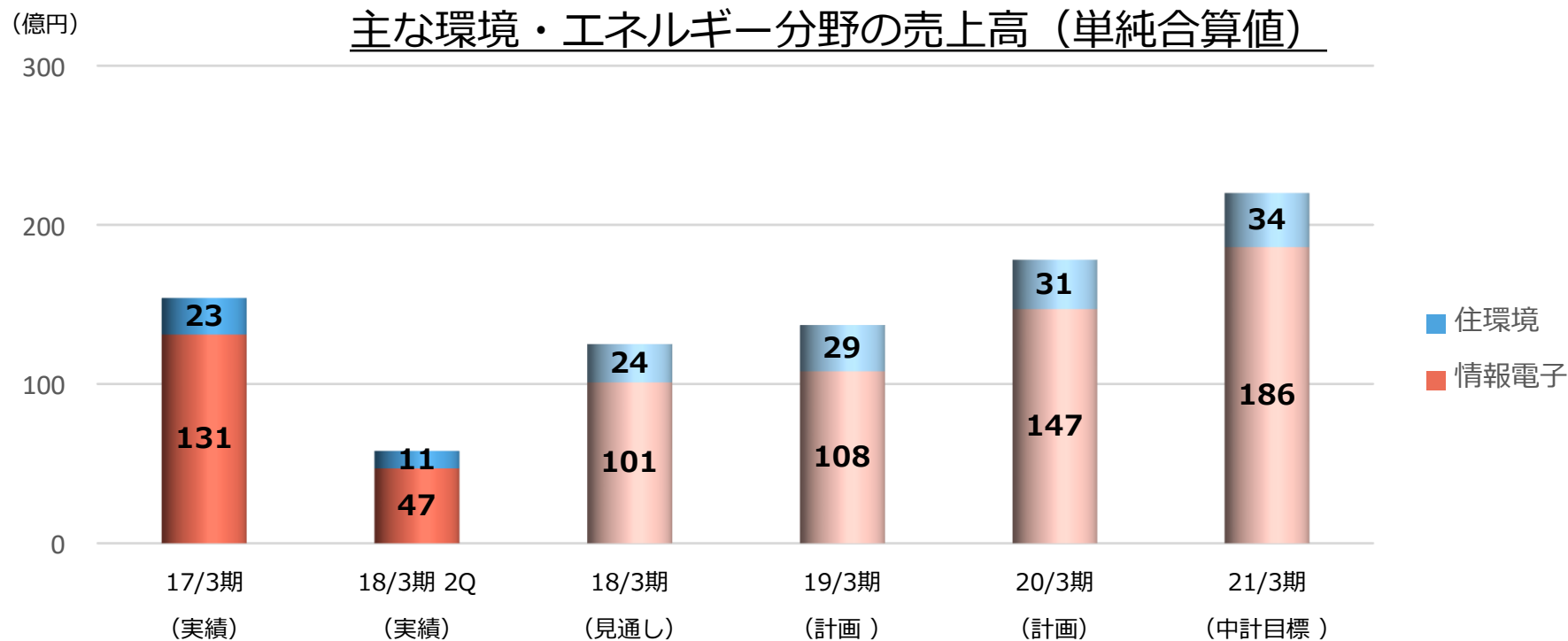
[情電] 加飾フィルム関連の販売



環境・エネルギー分野への主な取り組み

[情電] 太陽電池関連はドイツ子会社問題により下方修正、
リチウムイオン電池に注力

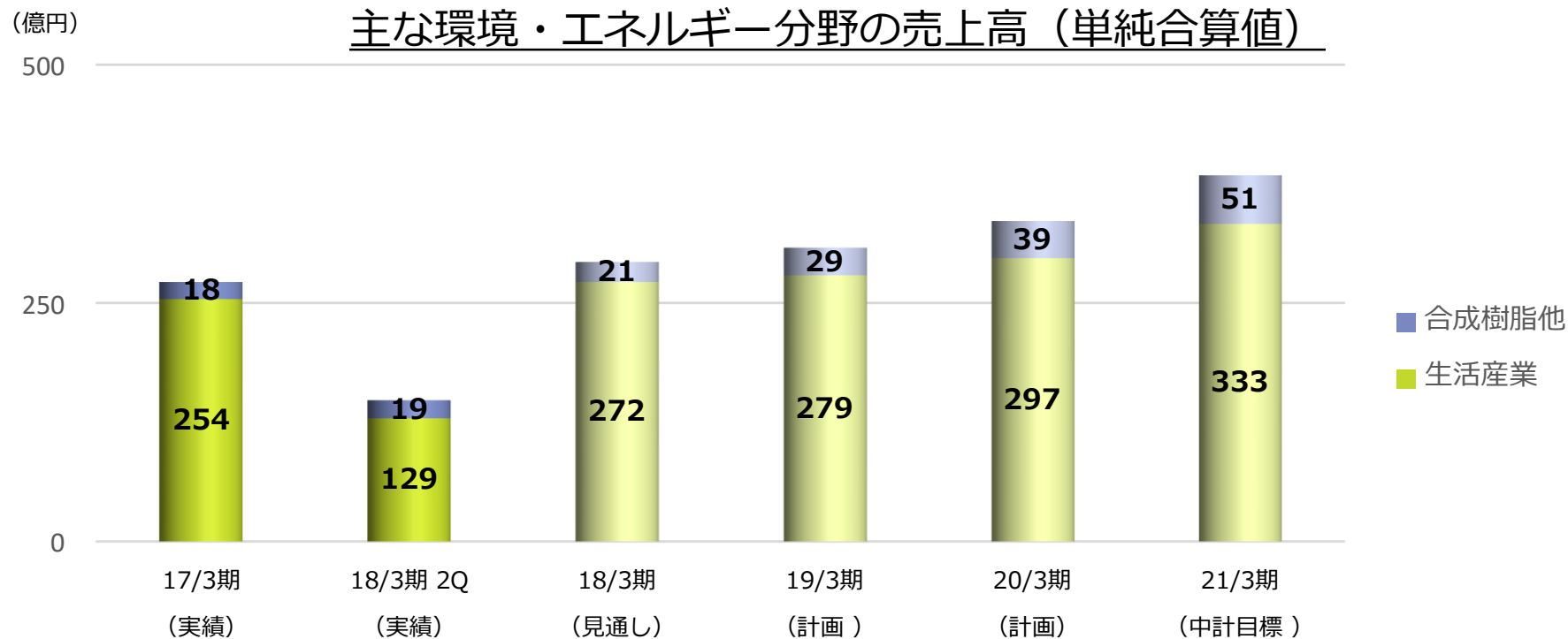
[住環] 木質チップとパーティクルボードの販売に注力



ライフサイエンス・医療分野への主な取り組み

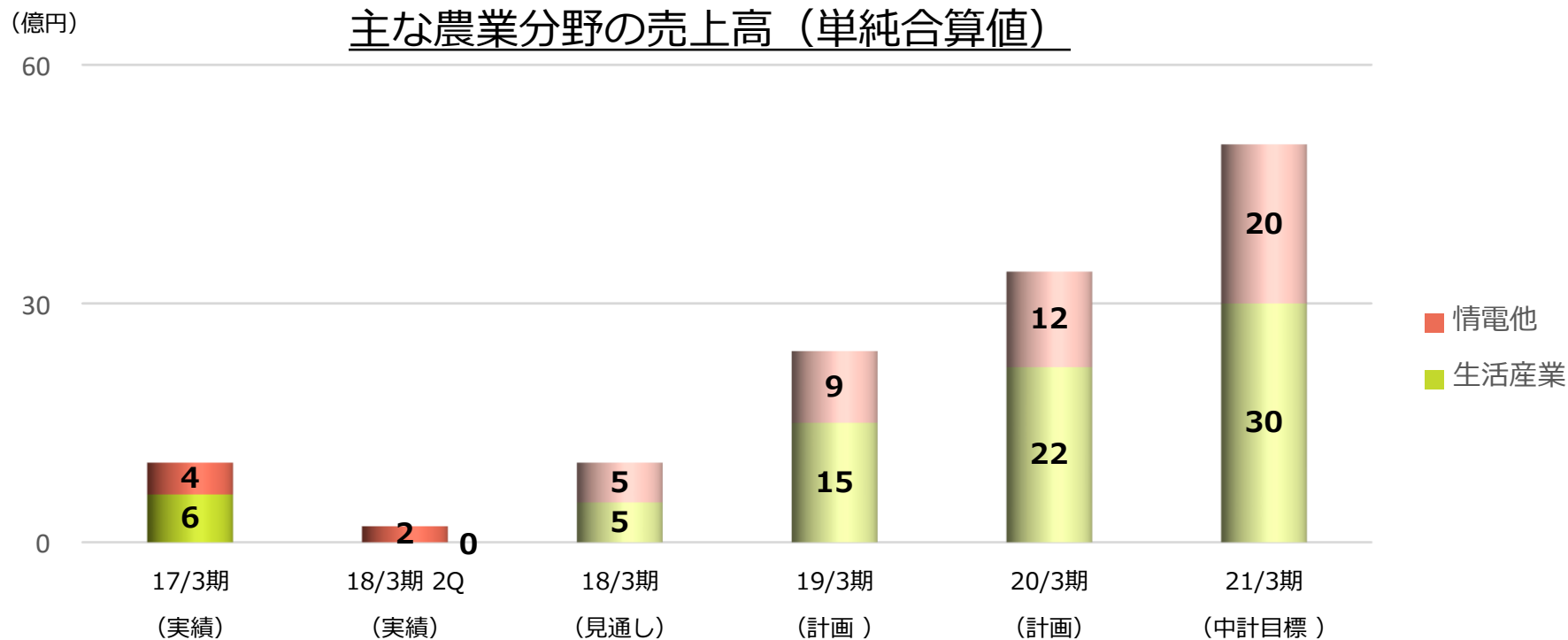
【生活】 医薬品原料、化粧品原料等に注力、先端医療分野は再生医療機器などの販売を進める

【合成】 医療機器メーカー（シリンジ用など）への樹脂の販売



農業分野への主な取り組み

- [生活] 野菜、果実などの農産物の栽培・販売、加工拠点の構築と加工品の販売に注力
- [情電] 粗飼料、農業資材関連の販売、農業用フィルムの販売
- [合成] 農業用フィルムの販売



(※) 冷凍ブルーベリーや冷凍野菜のビジネスは上記に含まず

【参考】 海外事業の更なる拡大と深化

コンパウンド製造拠点の進捗状況 [メキシコ・自動車向け]



新規案件の試作依頼は引き続き活発ながら
大型案件の立ち上がり遅れ等により、販売は計画比遅れ気味

2018年3月期2Q	販売実績	3,100トン
2018年3月期	販売見通し	6,600トン



会社名	: IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.
生産能力	: 15,000トン/年
所在地	: メキシコ中央部グアナフアト州シラオ 2013年11月稼働、2014年9月より量産開始

【参考】 海外事業の更なる拡大と深化

コンパウンド製造拠点の進捗状況 [フィリピン・O A向け]



主要O A顧客向けが伸びず苦戦が続いたが、足元の販売は回復傾向
新規顧客向けの販売も徐々にスタート

2018年3月期2Q	販売実績	3,400トン
2018年3月期	販売見通し	7,100トン



会社名 : IK PLASTIC COMPOUND PHILS. INC.
生産能力 : 10,800トン/年
所在地 : フィリピン ラグナ州
2014年7月商業生産開始

取締役会評価について

取締役会の実効性と透明性を高め、企業価値を向上させることを目的

2016年3月期、2017年3月期

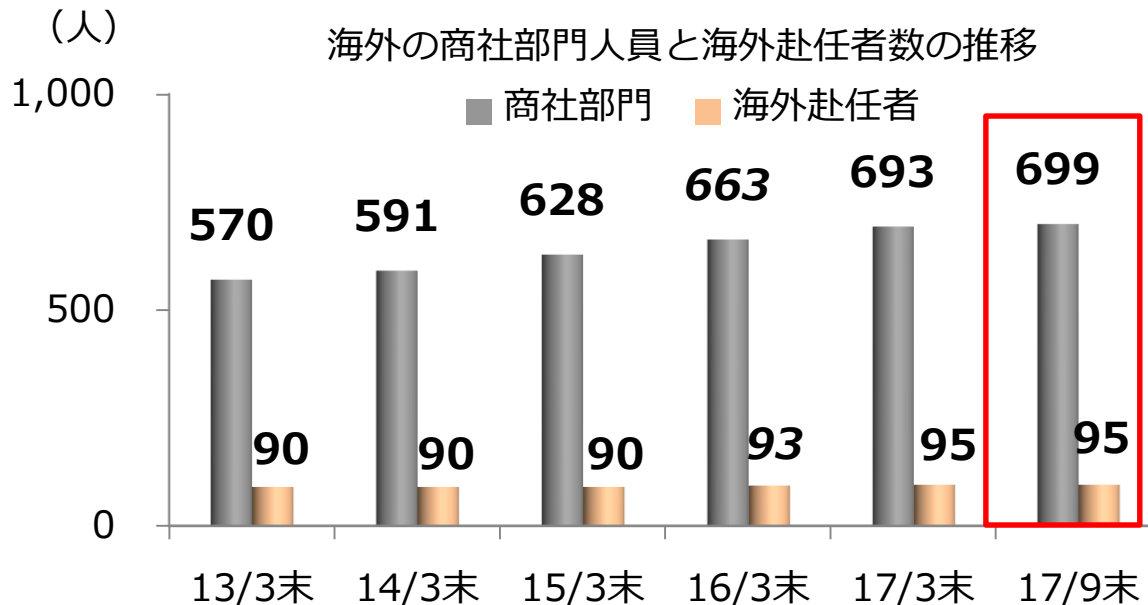
全取締役・監査役にアンケート形式による自己評価を実施

2018年3月期

第三者評価を実施中 ⇒ 2018年3月頃 評価結果を開示予定

人員の充実と共に、質的な面での強化育成を加速

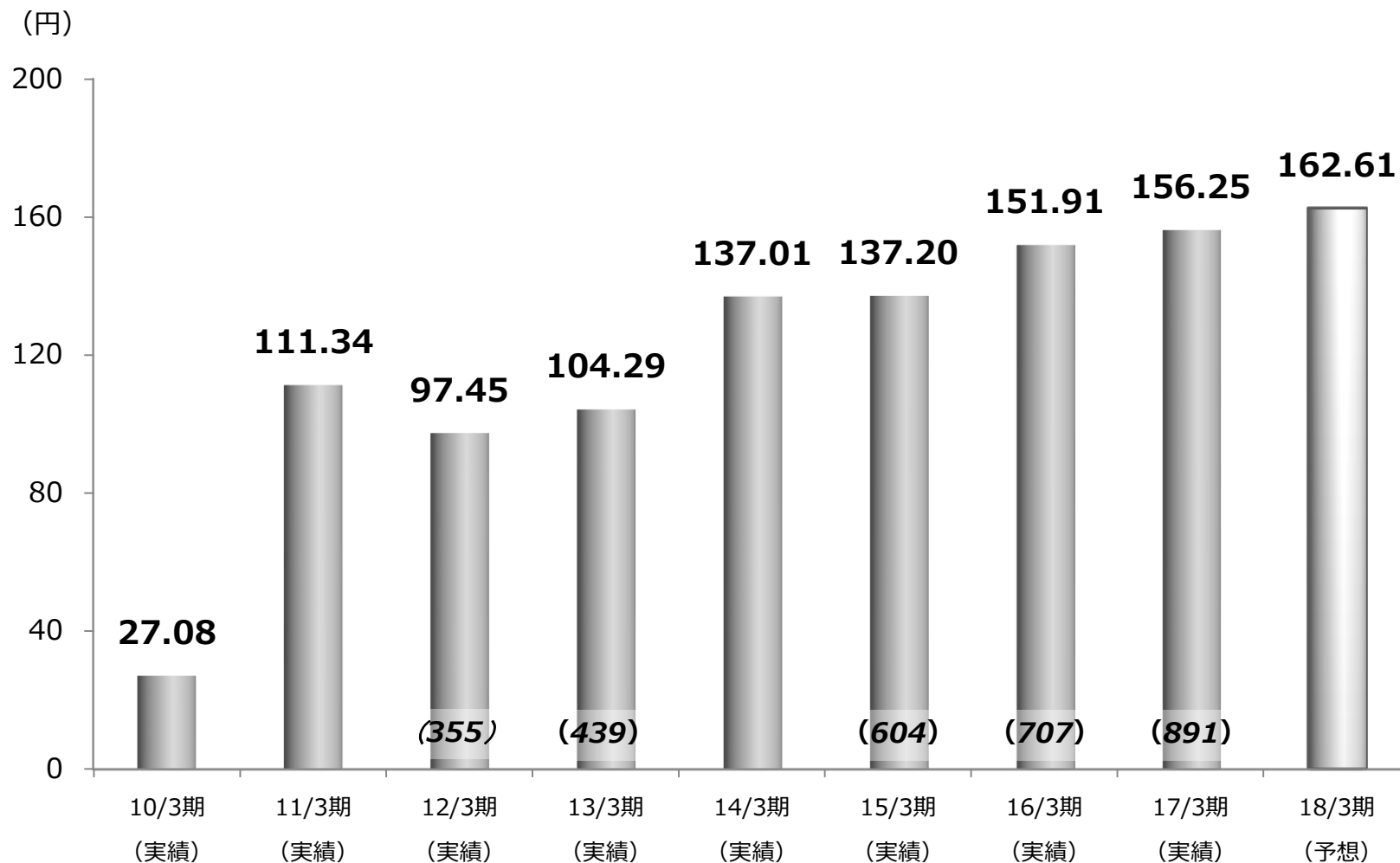
- ✓ 日本を含めたナショナルスタッフ同士の交流促進
- ✓ Global Staff Meetingの継続的な開催
 - 2017年5月に東京で開催（ナショナルスタッフ 6名参加）
 - 「目指す姿（Vision）」、「価値観（IK Values）」の共有を目指す



【稲畑インドアの社員と役員】

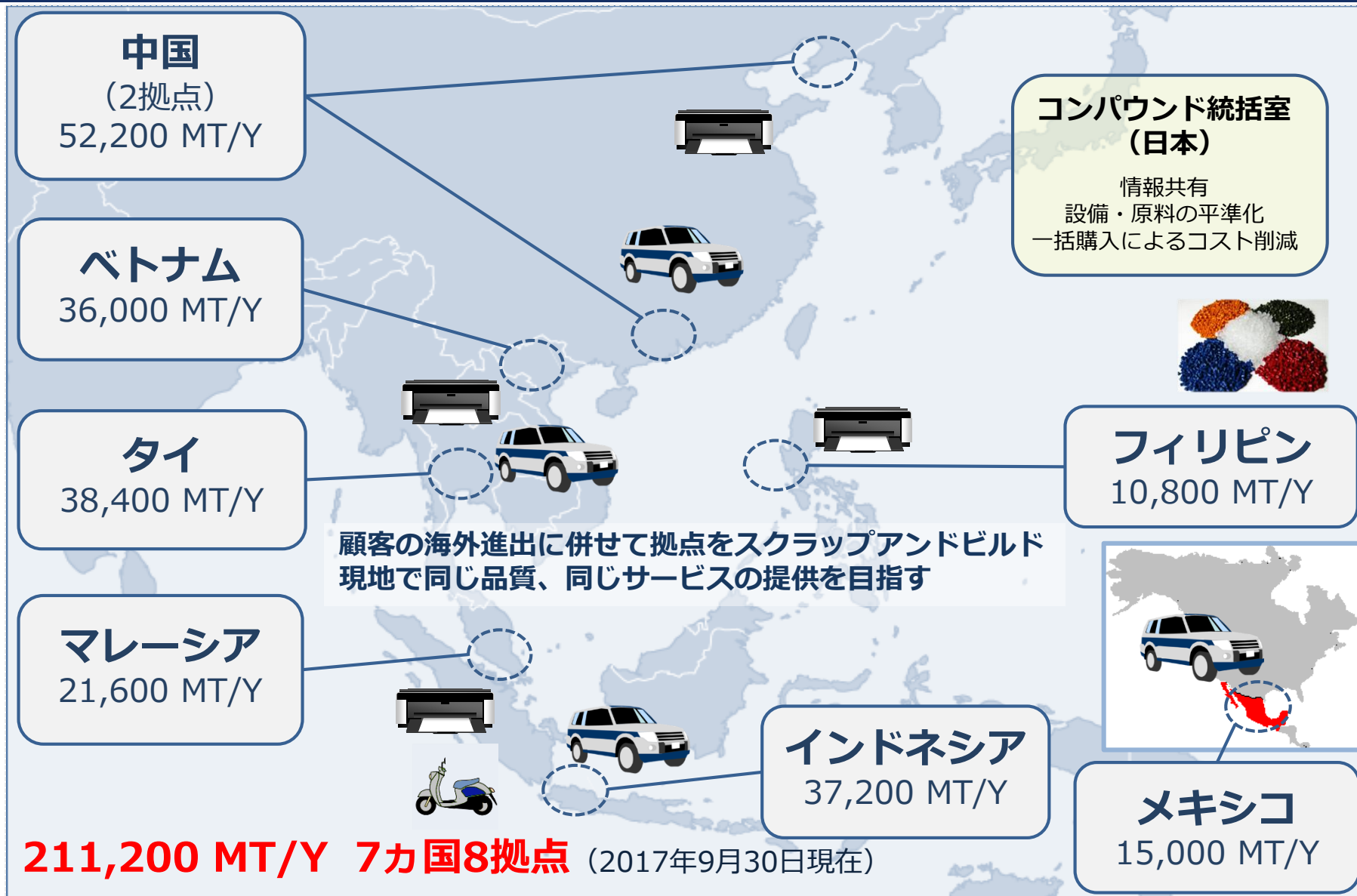
(注) 各海外赴任者数は、翌月の1日現在の人数

【参考】1株当たりの当期純利益



(注) 棒グラフ下部のカッコ () 内は、期中に実施した自己株式取得額 (百万円)

【参考】樹脂コンパウンドの年間生産能力



【参考】 会社概要

会社名	稲畑産業株式会社
創業	1890年10月1日
設立	1918年6月10日
資本金	93億6千4百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 稲畑 勝太郎
本社	大阪本社/大阪市中央区南船場一丁目 15番14号 東京本社/東京都中央区日本橋本町二 丁目8番2号
従業員数	629名〔連結3,998名〕
発行可能 株式総数	200,000,000株
発行済株 式の総数	63,499,227株

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
上場市場	東証一部
証券コード	8098
単元株式数	100株
株主数	11,894名
大株主の状況 (持株比率上位3 株主と持株比率)	住友化学株式会社 22.4% 日本トラスティ・サービス信 託銀行株式会社(信託口) 5.3 % JP MORGAN CHASE BANK 380684 4.6%

(注) 当社保有の自己株式数(1,810,015株)については、
持ち株比率の計算から除外しています。

(2017年9月30日現在)

□ I Rに関するお問い合わせ先

稲畑産業株式会社 財務経営管理室 I R企画部
TEL 050-3684-4007 FAX 03-3639-6410
E-mail inabata-ir@inabata.com

◆将来の見通しに関する注意事項

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。従いましてこれらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではないことをご理解下さい。

◆数値の表示に関して

資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。